

まちに広がる出会いと学び、体験・交流の場

まちなかの身近な自然

ひとはく最寄りの神戸電鉄フラワータウン駅から博物館に向かって少し歩くと、エントランスホール、恐竜ラボ、コレクションナリウムなどの建物が見えてきます。周辺にはビルや駐車場、大きな歩道橋などが目立ち、一見すると人工的なものばかりのようです。しかし、あらためて見てみると、植え込みや街路樹、路傍の草むらなど、意外と緑が豊かなことに気がつくでしょう。歩道橋を上りしばらく進むと、眼下には広々とした深田公園、そしてそれを取り巻くようにして残された里山林を一望することができます。

慌ただしい日常の中で見過ごされがちですが、フラワータウンのようなニュータウンの小さな自然の中にも多くのいのちが息づき、さまざまな生きものが暮らしています。普段と少し目線を変えてみることで、生きもののおかげで、思わぬ驚きや発見に出会うかも

しれません。生活様式や物流の変化により自然の恵みが感じられにくくなっている現代、そうした身近な自然の実態を感じたり知ったりすることは、これからの自然との向き合い方や人間社会の未来を考えていくにあたり、大切なことのように思われます。

そこでひとはくでは、こうした身近な自然を舞台とした、さまざまな学習支援の取り組みを進めています。植物や昆虫の観察、自然あそびなどをテーマにしたオープンセミナーをはじめ、エントランスホール近くの芝生エリアを活用した「そとはく」、公園緑地とそこに隣接する1階ピロティを活用した「えんがわミュージアム」などがその一例です。これらの取り組みはいずれも、実際に見て、触れて、感じる体験を大切にしています。そうした体験を一人ひとりが持ち帰り、それぞれの気づきや学びが、家庭や学校、さらには地域の中で広がっていくことを期待しています。



深田公園とニュータウンの中に残された里山林



1本のエノキにも昆虫や鳥など多くの生き物が集まる

まちの広場と博物館の役割

身近な自然を楽しむ機会づくりに取り組む中、フラワータウン駅と深田公園の間に、人々が集い、自由に遊んだり、市民が主体的な取り組みを実施したりすることのできる「エキマエアキチ」が整備されました(表紙写真)。2024年11月にオープンしたこのエキマエアキチは、遊びや地域イベントの開催場所となるハッピーパーク、バスケットボールなどを楽しめるスポーツパーク、習い事やサークル活動に利用できるレンタルルームに図書スペースが加わったエキマエベースから構成されています。オープン以降、エキマエアキチは子どもたちや学生、市民団体など、多様な世代の人たちに日々利用されています。キッチンカーやマルシェが集まる日には、家族連れなど多くの人でにぎわう姿もみられるようになってきました。

この新しい交流空間は、駅や商業施設と、緑豊かな公園の落ち着いた雰囲気と交差する場所に位置しており、隣接する博物館と連携す



そとはくの様子

ることで、まちを訪れた人や地元の方を地域の自然へゆるやかに誘う場としても機能することが期待できます。また、エキマエアキチは、まちびらきから約40年が経過したフラワータウンのこれからを考える「社会実験の場」としての役割も担っています。当館も、昨今の地域社会の課題でもある、放課後の子どもの居場所づくりに向けた試行的な取り組みとして、市民グループの方々と連携し、周辺の身近な自然や屋外空間を活用した学習プログラムを実施しています。

これに加え、まち全体での魅力づくりへの貢献として、フラワータウン再生をテーマとした地域に開かれた勉強会「PUB・ツチ」を定期的で開催し、さまざまな立場の人と対話を重ねてきました。今後もこうした実践を積み重ねながら、地域と共に歩む博物館のより良い姿を探っていきたいと考えています。

黒田有寿茂・福本 優

(新ビジョン実現タスクフォース)



まちの現在と将来について思いを馳せる勉強会「PUB・ツチ」